



## 第30期 事業報告書

(自令和4年4月1日 至令和5年3月31日)

### 1 株式会社の現況に関する事項

#### 1-1 事業の経過及び成果

令和4年度は、第5期（令和3～6年度）指定管理協定期間（4年間）の2年目であり、ようやく長く続いたコロナ禍からの回復の兆しを感じられる年度となった一方で、ロシアのウクライナ侵攻による世界情勢の不安定、燃料費の高騰による光熱費の上昇など当社にとっては依然厳しい状況が続きました。

そのような状況の中、催事・イベントを開催いただく主催者とのコミュニケーションを重視し、単なる貸し館ではなく、主催者をしっかりサポートすることに取り組んできました。利用後のアンケートに注力し、問題点や主催者の要望を社内で共有し、速やかに対応する体制を整えました。

伝統産業ミュージアムにおいては、西陣織の伝統技術をデジタル技術等の新しい視点から見せる自主企画展「MILESTONES—余白の図案」をはじめ、年間を通して様々な企画展や収蔵品展を開催し、ミュージアムへの集客を図りました。

コロナによる入国規制が緩和された10月以降は、海外の方のミュージアムへの入館者数が徐々に増加し、ミュージアムショップでの免税売上も回復の兆しがみられました。

また、みやこめッセへの集客増、岡崎エリアの賑わいの創出等を目指し、社内プロジェクトを立ち上げて実施いたしました自主企画事業の「和菓子創作作品展」や「わいわい電車らんど」は、入場制限をかけるほど大勢の方にお越しいただきました。

施設・設備面では、第3展示場の照明の一部をLEDに改修いたしました。ソーシャルディスタンス確保の観点からご利用いただく機会が増えた試験会場等で照度不足が懸念されておりましたが、この改修により、安心してお使いいただけるようになりました。

また、ソフト面では、国際衛生基準となる「GBAC STAR<sup>TM</sup> 認証<sup>※</sup>」を更新取得いたしました。

※世界的な洗浄業界団体 ISSA にて洗浄、消毒及び感染症予防のプロトコールを実施する施設の運営基準を提唱している部門、Global Biorisk Advisory Council (GBAC) による国際的認証プログラム

#### (1) 業績

昨年度に引き続きコロナ禍の影響を受け、特に上半期については催事件数及び観光客数は低位で推移しましたが、下半期には、展示場利用においても、コロナ禍で開催が見合わせられていた大型催事が3年振りに開催されるなど、コ

コロナ政策の緩和により、インバウンドが少しずつ回復の兆しをみせ、ミュージアムショップ店舗でも免税での売上が徐々に伸びるようになりました。年間稼働率は、目標の48%を上回る50.08%となりコロナ前に戻りつつあることが実感できました。特に、取消利用料収入(キャンセル料)が4,788千円となり、昨年度の15%(前年度比△26,916千円)に減少したことからもコロナ禍からの急回復を見てとれると考えます。

施設利用料収入(取消利用料を含む)は、稼働率の上昇により509,215千円(前年度比+119,495千円、増加率131%)となり、売上高全体では699,530千円(前年度比+138,075千円、増加率125%)となり、3期振りに営業利益1,903千円(前年度比+64,324千円)を計上することができました。

## (2) 損益

コロナ禍の影響を受けつつも、文化庁及び観光庁の事業補助金制度を積極的に活用できたことで、補助金収入(非課税雑収入)等を含む営業外収益が15,398千円となり、3期振りに経常利益17,106千円(前年度比+56,979千円)を計上することができました。当期純利益は16,926千円(前年度比△9,328千円)となり、2期連続の黒字決算を確保できました。

### 【参考】

区分	元年度	2年度	3年度	4年度
1株当たり当期純利益(円)	7,802	△68,708	14,585	9,403
総資産(千円)	752,069	801,351	827,713	741,412
純資産(千円)	541,746	418,070	444,324	461,251
1株当たり純資産額(円)	300,970	232,261	246,847	256,250

## (3) 営業状況

### ア 展示場等年間稼働率

コロナ禍の影響を受けつつも、主催者へのきめ細やかな対応、安心して催事を開催いただくためのサポートに取り組んだこと、また、ご利用者の皆様の感染防止対策の定着により、稼働率は昨年度に比べ大幅な伸びとなりました。

コロナ禍で開催が見合わせられていた大学入学式(4月)、古書展示即売会(5月)、呉服展示会(11月)、京料理展示大会(12月)及び京都マラソン(2月)等の大型催事が3年振りに開催され、また、9月と11月には月別の稼働率で60%超となるなど、人流の回復を実感しました。

さらに、昨年度に引き続き、京都市にワクチン接種会場として通年利用していただけたこと(約17万㎡/稼働率約5%相当)が稼働率伸長の大きな要因となりました。

その結果、年間稼働率は、年度当初は達成が厳しいと思っていた目標の

48%をさらに2ポイント上回る50.08%(開催件数368件)\*となり、来館者数も900,954人で、昨年度(665,024人)から35%以上増加しましたが、コロナ禍前3年間平均(1,228,517人)に対してはまだ73%という状況です。

※3年度稼働率：36.98% 開催件数：277件

元年度稼働率：50.71% 開催件数：376件

#### イ 伝統産業ミュージアムでの販売事業

当社が運営を担うことになってから初めて「新型コロナ感染症対策による臨時休館措置」のない年度となりました。

インバウンドの回復の遅れもある中、ミュージアムショップ店舗においては、「珈琲とうつわ2nd」、「本と工芸」及び「にゃんと工芸」等のショップ企画展を実施し、販売強化に努めました。コロナによる入国規制緩和後は、免税売上も回復の兆しをみせはじめ、オンラインショップを含めた売上は38,856千円(前年度比+15,052千円/増加率163%)となりました。

学術会議や周年事業の記念品に京都の伝統工芸品の活用を提案する取組では、受注実績が38,981千円(前年度比+23,152千円/増加率246%)となり、前年度から大きく伸ばすことができました。

京都の伝統産業を体験・見学できる「工房コンシェルジュ」事業については、事業収入は4,435千円(前年度比+1,892千円/増加率174%)となりました。観光庁の補助金を活用して、通訳ガイドの養成に取り組む等、海外の富裕層、団体顧客向けの販売を視野に入れてブラッシュアップに努めましたが、まだ収益拡大に寄与するまでには至っていません。

#### ウ 駐車場利用料収入

展示場稼働率の回復もあり、駐車場利用料収入は、76,412千円(前年度比+15,984千円/増加率127%)となり、コロナ禍前3年間平均(80,856千円)の約95%まで回復しています。収入増の要因は、昨年度に引き続きワクチンの接種に自家用車で来館される方が多かったこととともに、ロームシアター京都や美術館等岡崎エリアの人流が戻ってきたことが大きいと考えています。

### 1-2 当該事業年度における主要な事業内容

#### (1) 京都市勧業館みやこめっせ事業

展示場及びその付随施設、会議室、ギャラリーの賃貸及び管理運営、催事の企画運営サービス、駐車場管理

#### (2) 京都伝統産業ミュージアム事業

京都伝統産業ミュージアムの運営、ミュージアムショップ及びオンラインショップ等による伝統工芸品の販売、企画展の実施、京都市受託事業の実施

#### (3) 自主企画事業

産業振興、文化向上、地域貢献に資する事業の実施

### 1-3 当該事業年度における主要な営業所及び組織、使用人の状況

#### (1) 主要な営業所

本店 京都市左京区岡崎成勝寺町9番地の1

#### (2) 使用人の状況（令和5年3月31日現在）

区分	従業員数 (人)	前事業年度 末比増減(人)	平均年齢 (歳)	平均勤続 年数(年)
男性	14 (0)	△1 (0)	52	8
女性	29 (15)	3 (1)	47	7
合計又は平均	43 (15)	2 (1)	49	7

注 ( ) 内は臨時社員の内数，特定イベントの臨時要員を除く。

### 1-4 主要な借入先

(令和5年3月31日現在)

借入先	借入金の残高(円)
株式会社三菱UFJ銀行	15,000,000
株式会社京都銀行	15,000,000
京都信用金庫	15,000,000
京都中央信用金庫	15,000,000
合計	60,000,000

## 2 株式に関する事項

### 2-1 株式の状況

発行可能株式の総数 4,000 株

発行済株式の総数 1,800 株

### 2-2 当事業年度末の株主数

9名

株主名	当社への出資状況	
	株式数	持株比率(%)
京都市	1,080	60.0
京都府	100	5.6
京都商工会議所	100	5.6

(次ページへ続く)

株主名	当社への出資状況	
	株式数	持株比率(%)
公益財団法人京都伝統産業交流センター	100	5.6
公益社団法人日本図案家協会	100	5.6
株式会社三菱UFJ銀行	90	5.0
株式会社京都銀行	90	5.0
京都信用金庫	80	4.4
京都中央信用金庫	60	3.3
合計	1,800	100.0